

福山港のコンテナ定期航路（韓国航路）の減便について

1 要旨・目的

福山港において SINOKOR（長錦商船）及び HEUNG A LINE（興亜ライン）が共同運航する韓国向けコンテナ航路（週 2 便）が、2 月第 1 週から 1 便に減便され、福山港における韓国向けコンテナ航路は週 3 便から 2 便へ減便となった。

2 現状・背景

SINOKOR（長錦商船）及び HEUNG A LINE（興亜ライン）は、共同運航による釜山・釜山新港向けなどのサービスを提供している。

この度の当該航路の減便は、当該船社 2 社の共同運航における西日本サービスの運航スケジュールの安定化を図るための航路改編により実施されたもの。

3 概要

(1) 航路改編の概要

【航路改編前：週 2 便】

船社名	曜日	最大積載量	寄港地
SINOKOR・ HEUNG A LINE	水	704TEU	<u>福山(水)</u> －蔚山(木)－釜山(土/日)－下関(月)－響(月)－今治(火)－松山(火)－水島(水)－ <u>福山(水)</u>
	木	628TEU	<u>福山(木)</u> －高松(木)－伊予三島(金)－釜山(日)－釜山新港(日/月)－高知(火)－徳島(水)－ <u>福山(木)</u>



【航路改編後：週 1 便】

船社名	曜日	最大積載量	寄港地
SINOKOR・ HEUNG A LINE	水	698TEU	<u>福山(水)</u> －伊予三島(木)－高松(金)－徳山(土)－釜山(日)－釜山新港(月)－博多(火)－ <u>福山(水)</u>

(2) 今後の対応

当該航路については、釜山新港の混雑等により、従来から木曜日に寄港する便の運航スケジュールに乱れが生じていたため、荷主の多くは水曜日の便を利用していることから、この度の航路改編による大きな影響は生じない見込みである。

船社と船舶代理店が密に連携して、状況を注視するとともに、他の船社が福山港に寄港する韓国航路の利用を提案するなど、荷主への影響が最小限になるよう対応していく。

引き続き、韓国船社における今後の航路改編の動きについて注視するとともに、福山港における韓国航路のニーズや利用状況を説明するなど、福山港におけるコンテナ航路の維持・拡充に努める。

(参考)

1 福山港におけるコンテナ貨物取扱量の推移

(単位：TEU)

年	輸出	輸入	合計	(うち韓国航路)	(うち SINOKOR・HEUNG A LINE)
2023	37,591	37,459	75,050	16,354	7,371
2024	36,753	37,447	74,265	17,417	8,309
2025 (速報値)	38,733	39,248	77,981	17,978	10,755

※空コンテナを含む

2 福山港における定期コンテナ貨物航路（令和8年2月航路改編後）



3 改編後の福山港における韓国航路（週2便）

船社名	曜日	最大積載量	寄港地
SINOKOR・HEUNG A LINE	水	698TEU	福山(水)－伊予三島(木)－高松(金)－徳山(土)－釜山(日)－釜山新港(月)－博多(火)－福山(水)
KMTC ※改編無し	火	1,103TEU	福山(火)－広島(水)－大分(木)－蔚山(金)－釜山(土)－大阪(月)－神戸(月)－水島(火)－福山(火)